

---

# 黒窓姿饗祿

レッドリバー

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

黒窓姿饗祿

### 【Zコード】

Z6911C

### 【作者名】

レッドリバー

### 【あらすじ】

榎原先生率いる獵奇集団がおりなす洗脳怪奇ノベル

## 一章一十三節（前書き）

この話はフィクションです。

実際の登場人物、団体は架空の人物です。

## イタイイタイイタイイタイ

私は18番の宇宙の心理です。今日は家に帰ると家内が脳が痒い脳が痒いといつてていたので

知り合いの宗教法人の槙原先生にお願いしました。槙原先生は家の耳に太い鉄棒を入れ

てぐりぐりしていくと家の耳から脳髄液がどばっと出て来て「これは悪性の菌が染み込

んでますね」と言われたので全部出すようにお願いしました。出している最中も家内は世

にも聞いたことないような悲鳴を上げ続けて、槙原先生はどうする事なく脳髄液を抜き続

けて全部抜く頃には家内もカラパゴス様の真意と一つにして、白い目をして悦楽の表情を

してこの身を捧げて絶命しました。私は槙原先生にお礼をいい、早速依頼料の話をしまし

た。「わたしの家はとても貧困なので依頼料は払えません」「まあ前々からそのことはお

聞きしていましたので、どうでしようその身をわざわざるのは?」「え? わ、わたしもカラ

パゴス様の真意を受け止めをしてくれるのでですか?」わたしはうれしさのあまり目の前が

見えなくなりました。ただ、槙原先生はそれだけでは足りないといつていたので私の娘達

を渡すことも承諾しました。娘達もカラパゴス様の真意に触れられてさぞ満足するでしょう。

1・痛い痛い！—「それぞまさしくこの世の意識か！痛いイタイイタイイタイ……」

儀式のまえに槙原先生はあそこの世界に持ち込んではいけないものをおしえてください、  
わたしはそれに従い生爪をひきちぎりました。痛みありましたが後のカラバゴス様の真意  
を聞けることを思つとうれしさの方がまさつてました。なんとかす  
べて生爪を剥がし終えてました

次の作業は目がいらないと言わされたので槙原先生受け取った専用道具で眼球を引き抜きました。ふたつとも引き抜くとわたしの中から光が亡くなりかわりに温かいなにかがふつてきました。槙原先生はそれをあの御人から祝福です。といっていたので素直に信じます。



## 一章 | 十二節（後書き）

感想くれるといつれしこです。

愛していますか？

私はカラパゴス様と常にいます。カラパゴス様はわたしをあたたくつつみます。カラパゴス様カラパゴス様カラパゴスカラパゴスカラパゴス……

3・たあおいで…

今日は娘を連れてきました。槙原先生は娘を受け取るとカラパゴス様のいる離れへと移動しました。移動中にベンチに誰かいるのを感じました。あれはきっと妻に違ひありません。妻は動こうとせず、私にほほえでくれます。そうに違ひありません。娘も笑っています。顎が外れるまで笑っていました。びくりとしない妻に別れを告げてました。「つきましてよ」槙原先生はそうおっしゃられてあとは自分達の力で見るようにおっしゃられました。

娘はカラパゴス様をみたとたん日本語ではない歡喜な声を上げて、自分の臓器を爪でとり出すようにしてます。私は目が見えませんが娘の成長を喜び、目があつた部分から手を入れて耳の内部を取り出しました。その瞬間平行感覚はうしなわれて私は仰向けになります。カラパゴス様がほめています。

楨原先生は娘になかなか臓器を取り出されない様子を見て斧を貸してくれました。やさしいです。娘は斧を借りると「カラパゴス様————！」と叫び腹を十字に切り裂き中の臓器を出しています。楨原先生は「臓器をこちりこ」と言われて斧で腹を切り裂いている娘の隣で銀の皿に臓器を移しています。きっと妻も喜んでいた喜んでイル・喜んで・喜び・喜び・ヨロコビ・よよよよよよよよろよろよろよびびびびなぜ、カラパゴス様はあんなに優しいのですか？

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n6911c/>

---

黒窯姿饗祿

2010年10月16日00時15分発行